

## 身体障害者診断書・意見書

総括表

（ 障害用）

氏名	年 月 日生	男 女
住 所		
①障害名（部位を明記）		
②原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災 自然災害、疾病、先天性、その他（ ）	
③疾病・外傷発生年月日	年 月 日	場 所
④参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）		
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日		
⑤総合所見		
〔将来再認定 要・不要〕		
（再認定の時期 年 月）		

⑥その他参考となる合併症状

上記のとおり診断する。併せて次の意見を付す。

年 月 日

病院又は診療所の名称

所 在 地

診 療 担 当 科 名

科 医師氏名

身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第3項の意見 (障害程度等級についても参考意見を記入)

障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に

- ・該当する ( 級相当)
- ・該当しない

- 注意
- 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾病名を記入してください。
  - 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、歯科医師による診断書・意見書(別紙)を添付してください。
  - 3 障害区分や等級決定のため、北海道社会福祉審議会から改めて次ページ以降の部分についてお問い合わせする場合があります。

呼吸器の機能障害の状況及び所見

(該当するものを○で囲むこと。)

## 1 身体計測

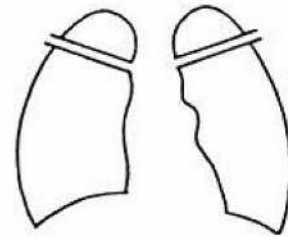
身長                      c m                      体重                      k g

## 2 活動能力の程度

- (1) 激しい運動をした時だけ息切れがある。
- (2) 平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。
- (3) 息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることがある。
- (4) 平坦な道を約 100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。
- (5) 息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。

## 3 胸部エックス線写真所見 ( 年 月 日)

- (1) 胸膜癒着 (無・軽度・中等度・高度)
- (2) 気腫化 (無・軽度・中等度・高度)
- (3) 線維化 (無・軽度・中等度・高度)
- (4) 不透明肺 (無・軽度・中等度・高度)
- (5) 胸郭変形 (無・軽度・中等度・高度)
- (6) 心・縦隔の変形 (無・軽度・中等度・高度)



## 4 換気機能 ( 年 月 日)

- (1) 予測肺活量                      ℓ                      (実測肺活量                      ℓ)
- (2) 1 秒量                      ℓ                      (実測努力肺活量                      ℓ)
- (3) 予測肺活量 1 秒率                      % (=  $\frac{(2)}{(1)} \times 100$ )

注 1 (1) の予定肺活量については、次の予測式を使用して算出すること。ただし、予測式の適応年齢は、男性 18 歳から 91 歳まで、女性 18 歳から 95 歳までであるので、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。

肺活量予測式 (ℓ)

男性  $0.045 \times \text{身長}(\text{cm}) - 0.023 \times \text{年齢}(\text{歳}) - 2.258$

女性  $0.032 \times \text{身長}(\text{cm}) - 0.018 \times \text{年齢}(\text{歳}) - 1.178$

5 動脈血ガス（ 年 月 日）

- (1) O<sub>2</sub> 分圧 Torr
- (2) CO<sub>2</sub>分圧 Torr
- (3) pH
- (4) 採血から分析までに時間を要した場合 時間 分
- (5) 耳朶血を用いた場合：[ ]

注2 動脈血の採血及び分析は、安静恒常状態において次に掲げる条件下で行うこと。

- (1) 採血時の体位は背臥位であること。
- (2) 採血時の吸入ガスは室内気呼吸中のものであること。なお、O<sub>2</sub>分圧については、本人の状況により酸素吸入中の数値しか得られない場合、吸入気の酸素濃度及び酸素投与の方法を記入すること。この場合、障害区分や等級決定に当たり、改めて問合わせをする場合があります。
- (3) 採血後、分析を5～10分以内に速やかに行うこと。

6 その他の臨床所見・検査所見

[ ]